

図鑑 (中) (1963)

Summary

Euryale ferox Salisbury, the only species known in the genus, is endemic to Asia. It was known to be rather widely distributed in Japan, from Miyagi Prefecture in the north to Kagoshima Prefecture in the south. However, based on my observation in September 1973, the species disappeared during the last twenty years at many localities marked with × in fig. 1 and table 1. In contrast, the species are well growing at 15 localities marked with ⊙, and are reported as living in several localities marked with ○.

□上野益三：日本博物学史 pp. 680+73 平凡社，東京，(1973) ￥4,800. 1973 年にはいろいろの本が出た。その中で傑出したものとして私はこの本を推したい。いままで事博物学に関しては白井先生の日本博物学年表がほとんど唯一といってよい。それも出版以来大分年数を経たし，それに誤植もまゝある。それが今度全く面目を一新した形態で出版されたのであるからありがたいことであった。

本書は二部から成る。第一が日本博物学通史で 160 頁，第二が新撰詳注日本博物学年表で 473 頁である。前者は要領よくまとめられているが，とくに貝原益軒の大和本草の出版とその内容に重点をおいて近世を四つの時代区分をしたのは著るしい点である。即ち 1) 本草綱目輸入以前の時代。慶長 12 年 (1607) に林道春が入手，家康に提出したことを第一の区切りとする。2) プレ大和本草時代。凡そ一世紀で食物本草が大きく影響する。宝永 6 (1709) に大和本草が出版されて 3) ポスト大和本草時代に入る。採薬という天然資源の調査が盛んとなり，江戸に本草家が集まり，博物学的傾向が強くなる。4) 文政 6 年 (1823) にシーボルト来朝し，鳴滝学舎がひらかれ，こゝからシーボルト渡来以後の時代となるとする。

年表は本書の中軸である。細大もらさずに関係事項を挙げて明治 33 年日本博物学会の結成を以て終っているのは意味が深い。しかも個々の記事の外に関連事項が事細かに述べられていて大変に便宜である。たとえば著書の刊行があればその書誌的なデータの外に内容を載せ，人名があればその伝記を添付するの類であって，これは容易なことではなかったことと著者に厚くお礼を申述べたい。

なお墳墓録に 61 氏を収録し一々その墓の写真を添え，索引として人名，書名，一般事項を別々にのせる。ぜひ一本を備えておきたい。博物史中，どういうわけか年号に誤記がしばしばあるのがおしまれる。

(前川文夫)